

講義コード	1531220000
講義名称	教育社会学A <春>
科目英文名	Sociology of Education A
開講責任部署	社会学部 社会学科
代表ナンバリングコード	0SOC2490
単位数	2.0
時間割	春学期: 木曜日 1 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
山内 乾史

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート
---------------	---

講義・演習概要	本授業は、教育の世界で起きる諸問題を社会学的視点から捉えていく方法について検討することを目的とします。教育は自己完結的な閉じたシステムではなく、政治・経済他の社会システムと密接な関わりを持つシステムであり、それ故に教育の世界だけを見つめるのではなく、巨視的な分析方法が必要とされます。本授業では、欧米との比較（特にアメリカ合衆国とイギリス）を通じて、また明治維新以降の流れを歴史的に振り返ることを通じて、現代日本の教育に起きる諸問題を解説していきます。
学習（到達）目標	教育を社会学的にとらえるとはどういうことなのかというものの考え方を習得することを本講義は目標とします。そのために、さまざまな諸外国の教育を取り上げ、比較することによって、日本社会の普遍性と特殊性について考えることを講義の中心にしています。講義は多人数になることが予想されますし、海外の教育について語る機会が多いため、映像による資料提示が多くなることと思います。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション 「教育社会学」とは何を論じる授業か 指定テキスト第1章
第2回	豊かさを目指して—高度経済成長と受験競争の大衆化、過熱化— 指定テキスト第2章
第3回	高学歴はなぜ尊重されたのか—教育投資論、スクリーニング仮説、統計的差別理論— 指定テキスト第3章
第4回	エリート教育と才能教育 指定テキスト第4章
第5回	日本の教育経費—授業料・奨学金政策— 指定テキスト第5章
第6回	高学歴者過剰問題について考える 指定テキスト第6章
第7回	大学と学生文化の変遷 指定テキスト第7章
第8回	学校教育制度の国際比較（その1）—いじめ問題への対処を通じた日英比較を中心に— 指定テキスト第8章
第9回	学校教育制度の国際比較（その2）—特別支援教育への対処を通じた日英比較を中心に— 指定テキスト第8章
第10回	不登校と多様な学校制度について—フリースクール、ホームスクーリング— 指定テキスト補論
第11回	教育実習の実態について（その1）—小学校の例—

第12回	教育実習の実態について（その2）－特別支援学校の例－
第13回	学校の安全管理（その1）－生活安全と交通安全について
第14回	学校の安全管理（その2）－災害安全について－
第15回	まとめと「『到達度・理解度』の確認」

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	70%
レポート	0%
その他	30%

成績評価の方法（コメント）	試験については、第15回授業時に行う「『到達度・理解度』の確認」をもって代えます。「『到達度・理解度』の確認」は指定テキストのみ持ち込み可（書き込み可）にする予定です。必ず用意してください。「その他」は授業終了時に課すコメントシートの提出回数と内容に応じて評価します。
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	山内乾史・武寛子	「学校教育と社会」ノート－教育社会学への誘い－（第四版）	大学オンライン販売	9784762032935	学文社	必ず用意すること

参考文献	原清治・山内乾史編(2019)『教育社会学（新しい教職教育講座 教職教育編③）』ミネルヴァ書房 山内乾史（2020）『「大学教育と社会」ノート－高等教育論への誘い－』学文社
事前および事後学習の指示	事前学習：指定テキストの該当する章を熟読していただきます。 事後学習：指定テキストの該当する章に課題が3～7題掲げられています。それを各自、指定テキストと参考書を使って自習しておくようにしていただきます。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	学校 大学 教育 社会

講義コード	1540020000
講義名称	産業社会学[2] <春>
科目英文名	Industrial Sociology
開講責任部署	社会学部 社会学科
代表ナンバリングコード	0SOC3460
単位数	2.0
時間割	春学期: 木曜日 1 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
萩原 久美子

授業形態	講義	アクティブラーニング	実務経験のある教員による授業① 報道現場の経験者が企業での人事労務管理の実際を踏まえて講義する
------	----	------------	--

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	コメントシート	小レポート/小テスト	

講義・演習概要	<p>納得のいく働き方がしたい。そのための一歩は雇用労働と管理のありかたを理解することから始まる。本講義はその実践のための基本的知識と雇用労働の変化について学ぶ。講義は日本型雇用システムを中心に、大きく三つの領域から雇用労働の変化と現在を考察する。第一に、労働や雇用を「管理」する基礎的な理論について取り上げる。第二に、日本型雇用システムの基本的な諸特徴と雇用管理上の基本的運用について学ぶ。第三に、社会変動と産業構造の変化とともに、企業における雇用管理がどのように変化したのか。またその変化が人々の生活をいかなる形で規定していったのか。政策の動きや財界の提言、さらにその社会的背景や国際的な動向とからめながら考察する。新聞記事や映像、企業情報などを通して、マネジメントの手法に映し出される企業組織の「働き方」と働く者が求める「働き方」とのせめぎあいの中から、納得のいく働き方、労働のありかたについてともに考える。</p>
学習（到達）目標	<p>①日本の雇用システムの雇用管理に関する基本概念と知識を理解し、日常生活の身近な課題として考察できるようになること。 ②産業、労働力の変化が雇用管理に与えたインパクトと課題を説明できるようになること。 ③日常での経験と結びつけながら雇用労働のありかたを社会的に見る視点と実践的な知識を身につけること。</p>

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション：本講義の概要と進行、受講にあたっての注意事項を説明する
第2回	労働と管理のまなざし① 組織と科学的管理法、人間関係論
第3回	労働と管理のまなざし② あなたの「やる気」のマネジメント
第4回	考察①雇用とこれからの暮らし 企業との関係をどう考えるか
第5回	日本型雇用システムの現在とこれから① 終身雇用は本当か？ 日本の雇用の諸特徴――採用から定年まで
第6回	日本型雇用システムの現在とこれから② 能力って何のことか？ 人事制度――職務と職能、役割、成果
第7回	日本型雇用システムの現在とこれから③ 年功序列はやめるべきか？ 評価と人事考課、昇進昇格の仕組み
第8回	日本型雇用システムの現在とこれから④ あなたの給料はいくらか？ 賃金制度の変遷と今
第9回	日本型雇用システムの現在とこれから⑤ 雇用の流動化はいいことか？ 能力開発とキャリア

第10回	まとめと補論
第11回	社会と企業組織との結びつき① なぜパートに女性が多いのか？ 日本社会の労働力編成と企業組織のフレキシビリティ
第12回	社会と企業組織との結びつき② 働き方はどう改革されたのか？ 労働時間管理と現状
第13回	社会と企業組織との結びつき③ 働かないと生きていけないのか？ 雇用を通じた「福祉」とその行方
第14回	考察②雇用とこれからの暮らし 豊かな暮らしとは？
第15回	まとめと補論

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	50%
レポート	40%
その他	10%

成績評価の方法（コメント）	<ul style="list-style-type: none"> ①評価対象とする試験：各テーマに関する小クイズ ②評価対象とするレポート：学習目標にそった課題に関するレポート ③その他：受講に対する積極性等
---------------	---

参考文献	<p>上林千恵子編著『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房 佐藤博樹・佐藤厚編『仕事の社会学』有斐閣ブックス 中西啓喜、萩原久美子、村上あかね編著『大学生から見るライフコース』ミネルヴァ書房 その他授業内でテーマに関連した文献や資料を配付、紹介する。</p>
事前および事後学習の指示	<p>講義資料は印刷し、ノートとして用いること。 小テスト、レポートを課すので、配布プリント・資料で講義内容を確認し、キーワードやポイントの整理を行うこと。 配付資料や指定された資料を読み、講義の予習、復習を行うこと。</p>
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	雇用労働 日本型雇用システム 人事労務管理 雇用によらない働き方 キャリア

講義コード	1586220000
講義名称	民俗学A <春>
科目英文名	Ethnology A
開講責任部署	国際教養学部 英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	ANTH3400
単位数	2.0
時間割	春学期: 木曜日 1時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
大野 啓

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	本講義は民俗学とはどのような学問であるのかについて、その成り立ちや学問としての特徴について講義する。その際、民俗学がどのような「知」を構築してきたのか、そして、それがどのような問題を内包し、どのような可能性を持ちうるのかなどについて検討していく。
学習（到達）目標	1.講義中に解説した用語を理解すること（必須） 2.講義の内容を理解して説明することができること（必須） 3.民俗学がどのような学問的特性を有しているのかを学史を通じて考えることができる

講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	近代国家の形成と「文化」
第3回	ナショナリズムと国民1 民族・文化・言語と国家
第4回	ナショナリズムと国民2 「国民」の同質性と周縁の存在
第5回	国家が規定する「民俗」
第6回	前近代における「日本」へのまなざし
第7回	民俗学前史 - 「伝統」を対象化すること
第8回	民俗学の形成
第9回	民俗学の成立
第10回	柳田以降の民俗学1 「常民」の歴史へのまなざし
第11回	柳田以降の民俗学2 「常民」の文化へのまなざし
第12回	「常民」概念の可能性について
第13回	「伝統」を対象化する意味について
第14回	民俗学の限界と可能性
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験

レポート	60%
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	講義の理解と各自の見解を問うレポートを2回、課します（各々全体の30%を上限として評価します）。 授業後に授業内容の確認やコメントを求めます（全ての確認やコメントを提出した場合、40%を上限とした評価を行います、一回当たりの成績割合は微々たるものですが、最終的には成績に大きく影響します。なお、提出機会の三分の二以下しか提出をしなかった者は評価の対象から外します）。
---------------	--

参考文献	ベネディクト・アンダーソン著、白石隆／白石さや訳『増補 想像の共同体－ナショナリズムの起源と流行』NTT出版
事前および事後学習の指示	講義中に指示した参考文献などに目を通すこと。 講義内容で理解できない用語などがある場合には、『日本民俗大辞典』（吉川弘文館）などで調べること。 講義で行った確認やコメントについて、次回の講義時に全体に対してのフィードバックを行う。自らが提出した内容を踏まえて、再度、見直すこと
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	民俗、近代、伝統、学史

講義コード	1677920000
講義名称	ドイツの文化A <春>
科目英文名	Studies on German Culture A
開講責任部署	経営学部 経営学科
代表ナンバリングコード	CULT2400
単位数	2.0
時間割	春学期: 木曜日 1 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
高田 里恵子

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート	小レポート/小テスト
---------------	---	------------

講義・演習概要	<p>この講義のキャッチコピーは「ドイツを知ると日本が見えてくる！」というものです。近代ドイツの歴史や文化を辿りながら、その影響を受けた近代日本の歩を振り返ってみましょう。</p> <p>講義は第1部と第2部に分かれています。第1部の「国家とエリート——ドイツとアメリカ、そのあいだに立つ日本」では、1900年前後のエリート教育について、ドイツの近代史、特に社会史を踏まえながら考察します。日本とアメリカ合衆国、ドイツとを比較しながら、各国の歴史的背景を見ていきます。</p> <p>第2部の「ドイツ学校小説とホモソーシャルな空間」では、1900年前後のドイツ社会の構造的な変化を、当時流行した学校小説を取りあげながら分析します。ブルジョア階級の特徴を「ホモソーシャル」という切り口で見つめながら、現代社会の分析にも踏み込んでいく予定です。同性社会であった、1900年前後の学校世界を、男性ホモソーシャルという視点からだけでなく、女性ホモソーシャルという観点を導入して分析していきます。</p>
学習（到達）目標	<p>文学作品や映像作品など具体的な事例に触れながら近代ドイツに特徴的な歴史状況を見ていくことによって、考察力と分析力を身につけることを目標とします。ドイツとアメリカの相違点、ドイツと他のヨーロッパの国との相違点、近現代日本と欧米諸国の相違点に注目しながら、ドイツおよび日本の近代史を知ることを目指します。</p> <p>この講義では、授業内容を自分でうまくノートにまとめる練習、人の話の要点を的確につかむ訓練をしていただきたいと思います。講義前に「予習用スライド」を、講義後に「授業スライド」をアップロードします。詳細は学期の開始時に授業資料としてアップロードする「パワーポイント・スライドの配布について」をよく読んでください。</p> <p>また、小テストやコメントシートなどを通して、わかりやすく簡潔な文章を書く練習をします。この講義の目標は、何かを暗記することや歴史事項を確認することではありません。さらなる勉学や就職活動のために、聞く力・書く力・話す力を身につけることが目標となります。</p>

講義・演習計画

回	内容
第1回	講義の進め方や内容、試験、成績評価について説明する。 また、講義のテーマと、扱う時代を概観する。
第2回	第1部 国家とエリート教育——ドイツとアメリカ、そのあいだに立つ日本 19世紀から20世紀初頭にかけてのドイツ史、その「特殊性」について概観する。
第3回	ドイツの中等教育制度について ギムナジウムとは何か？
第4回	近代日本の中等教育制度と高等教育制度について ドイツの真似をした部分と日本独自の部分
第5回	アメリカのハイスクール制度について
第6回	ドイツの敗戦とエリート教育の「不変化」
第7回	日本の敗戦とエリート教育の「変化」 ドイツ型からアメリカ型へ
第8回	第2部 ドイツ学校小説とホモソーシャルな空間 ドイツ教養市民階級の構造
第9回	教養市民階級の男らしさ、その成立と衰退

第10回	ドイツ学校小説の構造と教養市民階級の危機
第11回	学校小説と同性間の関係 ホモソーシャルについて
第12回	ドイツ学校小説の特徴を考察する 最初の学校物語としての『春のめざめ』
第13回	日本におけるドイツ学校小説の受容について
第14回	学校小説とホモソーシャルリティを考える応用問題 女性ホモソーシャルリティの特徴について
第15回	全体のまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	20%
レポート	25%
その他	55%

成績評価の方法（コメント）	<p>「試験」は、対面の小テスト(1回10点)を2回行ないます。問題はその日の講義の内容に基づいています。記述式で一問のみ。200字以上300字以内の解答となります。</p> <p>「レポート」は、期末レポートとして最後の授業の終了後に課題を出します。ウェブ提出になります。だいたい800字から1200字程度のレポートにする予定です。</p> <p>「その他」については、ほぼ毎回提出していただくコメントシートや（小テスト実施日にはコメントシート提出はありません）、挙手での発言などを総合的に判断します。コメントシートに書いてもらう内容は、講義の最後に出す課題の解答です。コメントシートに感想や授業のまとめを書いていただくことはありませんので、ご注意ください。この言わば平常点が評価の中心となります。つまり、一番重要なのはこのコメントシート提出です。</p> <p>詳細は学期の開始時にM-Portに授業資料としてアップロードする「コメントシート、レポート、テストの採点基準について、及びコビペに対する処置について」をよく読んでください。</p>
---------------	---

参考文献	野田宣雄『ドイツ教養市民層の歴史』（講談社学術文庫） M. クラウル『ドイツ・ギムナジウム200年史——エリート養成の社会史』（ミネルヴァ書房） トマス・キューネ『男の歴史——市民社会と「男らしさ」の神話』（柏書房）
事前および事後学習の指示	予習として、授業で扱う文学作品や参考文献のうち、文庫などで入手しやすいものを自分で読んでみることをおすすめします。直接には試験にはつながらなくとも、学生時代にさまざまな読書に挑戦することは重要です。 また、復習として講義のノートをよく整理してください。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	ドイツ近代史 近代ドイツと日本の関係 学校教育とホモソーシャルリティ ドイツ学校小説

【社会人の方へ】

- ① 一年生から履修できる科目のため、基本的な学習スキルについての話もあります。
- ② 毎回、授業の最後に課題を出し、それに回答するというかたちの小テストがあります。

講義コード	1E60050001
講義名称	健康・スポーツ科学講義-健康教育論 01<春>
科目英文名	Lecture for Health and Sports Science-Health Education
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	HSPT1000
単位数	2.0
時間割	春学期: 木曜日 1 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
大西 史晃

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	健康に関わる要素は多様であり、それらが日常の中でどのように変化するのか、あるいはどうすれば変化させることができるのかを知ることが人生の様々な時点で豊かなライフスタイルを獲得する上で重要です。本講義では、健康教育の要素と構造についての基礎知識を学びます。 本講義における前半部は、「健康」そのものについての定義やその要素に関する評価法について説明します。後半部では、前半部で学んだ「健康の要素」を整える、あるいは獲得する過程でみられる人の行動変容について提唱されてきた行動科学モデルについて説明するとともに、健康教育の実際の例を概説します。
学習（到達）目標	本講義では、「健康」とはどのような状態かを知り、その関連要素を満たすために必要な知識を修得するとともに人が健康行動を実施する過程を認識することを通して、人々が社会の中で健康行動を実施・継続するために必要なことを理解することを目指します。 講義内では「健康とはどのような状態かについて3つの観点から説明できる」、「健康教育の発展について提唱された理論やモデルについて説明できる」、「日常の身体活動量を評価できる」を具体的な到達目標とします。

講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス（授業の概要・成績評価・課題の説明含む）
第2回	「健康」の定義
第3回	精神的健康に関わる要素
第4回	肉体的健康に関わる要素
第5回	社会的健康に関わる要素
第6回	精神的健康とストレスの評価法
第7回	Quality Of Life(QOL)と身体活動量の評価法
第8回	「健康教育」とはなにか？
第9回	行動科学のモデル①KAPモデル/ヘルスピリーフモデル
第10回	行動科学のモデル②トランスセオレティカルモデル/Health Action Process Approach
第11回	行動科学のモデル③社会的認知理論
第12回	行動科学のモデル④Precede-Proceedモデル
第13回	「ヘルスプロモーション」の3つの前提条件と5つのアクション
第14回	我が国のヘルスプロモーションの実際
第15回	諸外国のヘルスプロモーションの実際

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	0%
その他	0%

成績評価の方法（コメント）	①小テスト10回-100%（各10%）
---------------	---------------------

参考文献	「実践 ヘルスプロモーション」 ローレンス W. グリーン&マーシャル W. クロイター、医学書院
事前および事後学習の指示	健康に関する書物や映像で事前に学習し、理解しておくようにしてください。これにより、講義を通して健康問題やそれに関する個人や社会の動きへの理解をより深めることができます。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	健康、健康教育、ヘルスプロモーション